

はしかが流行？

2024年3月25日 産業医・労働衛生コンサルタント 川村 孝

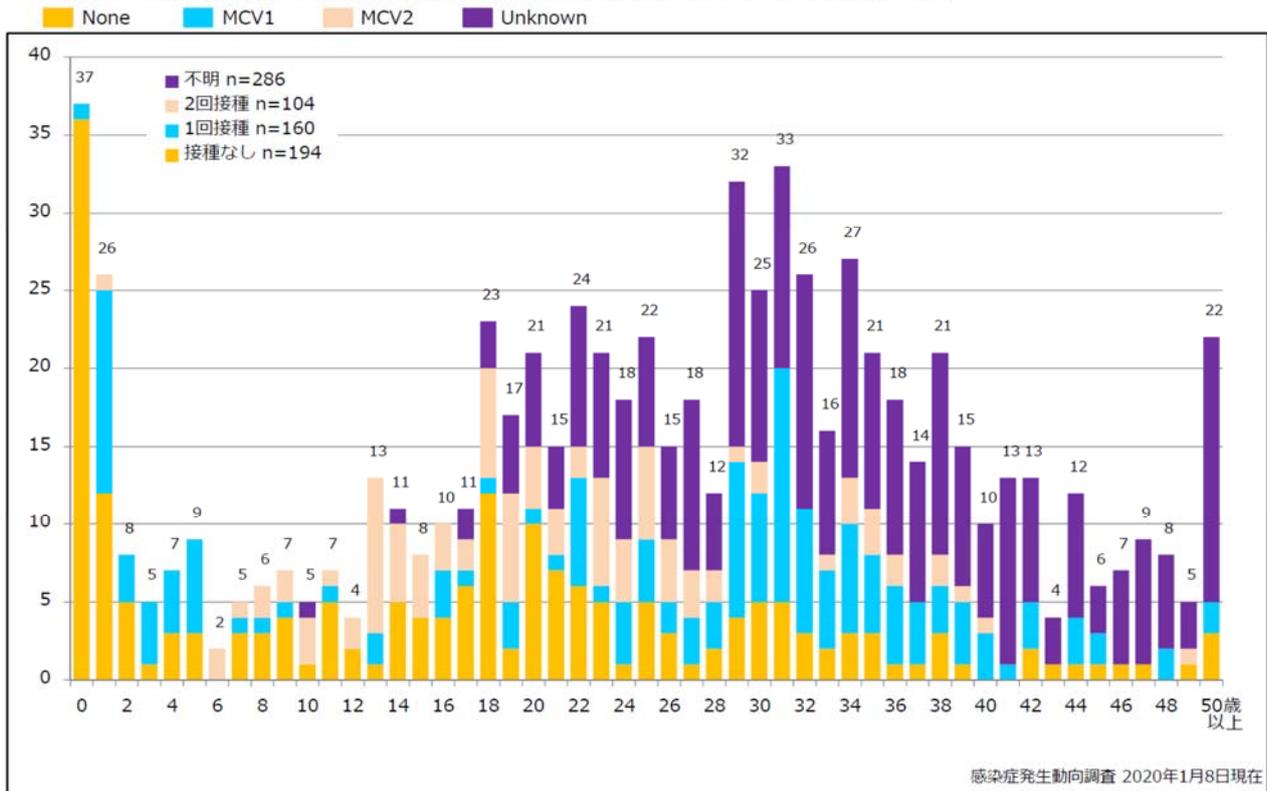
麻疹(はしか)が流行しているというニュースが流れています。しかし、コロナやインフルエンザのような流行にはなりません。年代によって発症しやすさが異なるので、それを解説します。

- (1) 2000年度生まれ以降は、1歳と小学校入学前にワクチンを定期接種(事実上の義務接種)することになっているので、その両方を受けていれば発症する確率はかなり低い。
 - (2) 1990年度～1999年度生まれは、1歳時の定期接種のほかに中学1年か高校3年の時に追加で接種する機会が提供されていたので、それらを受けていれば発症する確率はやはり低い。
 - (3) 1972年10月生まれ～1989年度生まれは、自発的に接種していない限り1回しか接種していないので、抗体不足の人がある程度存在し、最も発症しやすい世代となる。
 - (4) 1972年9月以前に生まれた人は、麻疹が定期接種対象疾患にはなっていなかったため大半の人がワクチンを接種していないが、自然感染が多い時代だったため子ども時代に顕性・不顕性に感染して免疫を持っていることが多く、ワクチンを接種していないのに感染しにくい。
- (註: 誕生日に関する年度は「当該年の4月2日～翌年の4月1日」です。)

発症者数が多かった(といっても全国で744名ですが)2019年の年齢別・予防接種歴別発症者数のグラフを添付します(国立感染症研究所の感染症発生動向調査)。2回接種が行き届いていない10代の終わり～40歳過ぎの発症が多くなっています。5年後の今年は(流行したとして)山が右に5年分ずれます。

図 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2019年 第1～52週 (n=744)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-52, 2019 (as of January 8, 2020)



感染症発生動向調査 2020年1月8日現在

【余談1】

抗体の有無は血液検査でわかります。麻疹について調べるのであれば、風疹(三日ばしか)や水痘(水ぼうそう)、ムンプス(おたふくかぜ)の抗体もいっしょに測定するとよいでしょう。

【余談2】

麻疹のワクチンは弱毒化した生ワクチンなので、不活化ワクチンであるインフルエンザ等と比べて脳炎等の副反応の頻度が高くなります。成人では、ワクチン接種は抗体価を調べて陰性であることを確認してからにしましょう。

【余談3】

血液検査で抗体価がわかりますが、抗体にもいろいろな種類があります。急性期にぐっと増えてその後は減少するので症状が出たときに麻疹かどうかを調べるIgM抗体、感染やワクチン接種後にゆっくり増えて持続するので麻疹に対する免疫を持っているかどうかを示すIgG抗体などです。目的に応じて使い分けます。

【余談4】

抗体価で検査陽性・陰性を判別しますが、検査自体の陽性・陰性と発症抑制力の有無とは一致しないので注意が必要です。麻疹のEIA-IgG法については、抗体価2.0以上で(検査結果としては)陽性と判定されますが、発症防止には16.0以上が必要といった具合です。